

越谷も

YES, WE CAN.

『やればできる』

発行日: 2010年11月30日

発行者: チーム白川

No.6号

事務所: 越谷市大里 226-1
TEL/FAX 048-970-8005

『トライ&チャレンジ』 Try & Challenge



越谷の YES, WE CAN. Part V

越谷の予算がどのように使われ、費用対効果が適切かどうかを判断する越谷市主催の外部評価が、8/19・20の両日行われました。市民に傍聴が許されオープンになりました。どの場面でも、予算執行が可視化されることは評価できることです。

越谷市政は事業仕分けに消極的であり、その対極にある外部評価方式が執られています。600以上ある事務事業の内、50項目が選ばれておりましたが、資料によりますと予算執行担当課の内部評価で課題ありと思われる事業が、外部評価の対象となったようです。そもそも外部評価者が適切に選ばれた50事業に、どれ程の理解を持って質問をしているのか、質疑を傍聴した様子では、一般企業の予算検討会より数段見劣りし、期待を大きく裏切られるものでした。

まず外部評価を受ける項目の選び方が不明瞭で、市民には分からないということです。予算総額1,400億円・600事務事業といわれているなかの50項目です。市民参加は名ばかりの外部評価公開ヒヤリングでは意味がありません。また後日議員参加が著しく少ないとの問いに、一部の議員は公開ヒヤリングの開催を知らなかったとのこと。本予算を可決した議会の無関心さは、決めたらあとはお任せ、白紙委任状態とはあまりといえどもあまりに無責任ではありませんか。もちろん決算特別委員会で討議の場があるのですが、市民にオープンになった場に参加され、課題とされた予算執行が外部評価員にどのように指摘されているか、また市民がどのような反応を示しているか、ぐらいいは見ておいて欲しいものです。(西川)

● 連絡先: 越谷市大里 226-1・「チーム白川」オフィス Tel・Fax 048-970-8005 事務局『岡村』090-3342-3064 まで

グラウンドゴルフ

【シリーズチーム紹介】 あおぞらクラブ

創立2年目の若々しいクラブで、参加地域は野島、西新井、南荻島等多数に広がっています。代表は石野眞次氏で、参加人員は13名です。練習日は毎週日曜日・しらこぼとゲートボール場です。がんばろう大会では本部設営などにチームとしての機敏な動きをいつも発揮していただ

いています。モットーは「せちがらい世の中だからこそ、礼儀正しく、健康的な仲間作りを目指そう」です。



第20回記念「がんばろう越谷」・グラウンドゴルフ大会-9/15

快晴の下、しらこぼと競技場で18チーム・170名弱の参加で開催されました。今大会は足掛け5年で20回目の節目に当たり、大会運営を支えていただいたクラブのリーダーの方々、参加者の皆さんに感謝の気持ちを込めた大会として様々な工夫を凝らしました。ホールインワンが70本も出るなど記念大会に相応しく盛況なものとなりました。



第21回大会は
12/9(木)開催
予定です。

■ 第85回タウンミーティング-9/19

▶ 9月議会報告-白川秀嗣議員-

報告のアリタキ植物園は、有料で来場者が来る規模ではなく、今後、近隣の公園とのコラボレーションやイベント等が必要と考えます。有料化より、寄付を現地で募る方が現実的に思えます。今後、市民参加での検証が必要です。

▶ 介護の現場の状況と課題について

ゲスト:橋本哲寿 社会福祉士

介護士の賃金のベースアップや障害者自立支援法と介護保険の一体化など、今後考え直す議論が有りました。初参加者が2名来られたので、皆様の感心の高いテーマだったのだと感じます。



◆第87回(11/20)は次号に掲載します

■ 第86回タウンミーティング-10/23

▶ ローカルmanifestoを競う統一地方選に向けて
-白川秀嗣議員-

manifestoの自己採点と課題の説明を頂きました。自己採点は全議員に実施して頂きたいと切に願います。議会改革への道筋がハッキリしていました。市民も議員を選ぶ基準を持つため、積極的に議論の場を足を運ばねばと思います。

▶ 規制緩和によるタクシー事業者の現状と課題について

ゲスト:小暮光康 岩槻タクシー社長

規制緩和は企業努力次第で拡張のチャンス!不景気に負けたくない意見でした。タクシーのイメージも変わってきており、若年層が活発に活躍できる場として、雇用拡大に大変期待しています。各種規制の撤廃や二種免許取得年齢引き下げなど、政策によって大きく変わる実態も知り、現場の意見の反映がまだ不十分なのが残念でなりません。



■ 「第4回政経セミナー」に参加-9/24

▶ テーマ:国会改革とみんなの党が目指すもの

▶ 講師:山内康一 衆議院議員(みんなの党国対委員長)

参院選で躍進したみんなの党の山内議員からの、「熟議」決定する議会と主権者の役割についての講演は、「小さな政府」を目指すという軸足の座った内容のもので、とてもわかりやすく共感できるものでした。指導者たる者には頭の柔軟さ、精神の若さが必要だと思いますので、そのような議員を選ぶ主権者の責任は大きいと思いました。



●山内衆議院議員

◆第5回は11月26日に行われました。次号に掲載します

■ 第8回桜井地区「市政報告会」に参加-10/3

9月決算議会(税金がどのように使われたのか)への関心は高く、日曜日夕方開催にもかかわらず35名の参加者があり、市長manifestoの実行が遅れている事に対してどう判断したのか、その報告を巡っての市民との質疑応答もかなり緊張感のあるものとなりました。また、『桜井地区6人の超党派議員による8回に渡る市政報告会』は六本木アカデミーヒルズで行われた第5回manifesto大賞の優秀議会改革賞への応募案件として「越谷市議会」からエントリーされました。



■ 第3回大袋地区「市政報告会」に参加-10/23

北交流館にて

9月定例市議会・各委員会報告を中心に、決算特別委員会・第4次総合振興計画の説明がなされました。ボリュームの多い課題を要領よく簡略化した説明だったように感じました。看聴師不足対応、プレミアム商品券の費用対効果、中核市への移行、総合振興計画の進捗等が報告されました。参加双方の市政報告会への熱意がはつきりと見て取れる会となりつつあります。もう少し多くの市民の参加が待たれます。次回開催は12月~1月ですが、議会開催前に市民との議論がなされる事を期待したいと思います。◆次回報告会は桜井・大袋地区とも12月~1月の予定です

■ 総合振興計画からの断片的回想

第4次越谷市総合振興計画基本構想(素案)をたまたま読む機会があった。ばら色のユートピア宣言とでもいえるような、素晴らしい内容であった。それだけに、越谷市の現況に目を向けると少なからず落胆する。

シラコバト、オナガが木々の間を飛び交っていた子供の頃の心象風景は無くなった。反面、カラスとキジバトは増えた。天然記念物であるシラコバトの保護を訴えないと、極めて近いうちに絶滅の危機になってしまうであろう。北中学校の生徒であった当時、シラコバトの生態の調査を学校全体で実施し、その数を概ね把握したような記憶がある(筆者は第3回卒業生)。安心・安全な暮らしは、ハコモノ行政に頼るだけでなく、シラコバト・オナガが飛んでいる緑豊かな環境から生み出されなければならない。

基本構想では前提や予測と異なる時には、修正を担保しているが、達成できないような場合の懸念・障害・リスクを併記していない。市民一人ひとりの不断の努力がいかに重要かと訴えることにも欠けている。「あれもできるでしょう。これもできるでしょう。」というような構想には、一見心地良さを覚えるが、その後空しい倦怠感が脳裏をよぎる。(浅子)

編集後記

◆「越谷がどうなっており、どうなり得るのか」を市民の立場で見て、考え、話し合いました。白川議員がホームページでソリッターを始め、タイムリーな話題を提供していますので、アクセスしてみてください。人口減で歳入が減り、高齢化で歳出が増える厳しい財政事情に対応するため、現在行われている事業の外債削減や今後10年間のまちづくりの指針「第4次総合振興計画」を市民目線でフォローしましょう。(岡村)

<http://www.gikainet.ne.jp/koshigaya/shirakawa/>

第88回タウンミーティングは
12/18(土)に開催予定です。